

思考力・判断力・表現力を育む国語科の指導

～言語活動の充実を通して～

I 研究の内容

本部会では生徒の実態を踏まえ、上記のようなテーマで研究を行ってきた。コミュニケーションツールの変化や人間関係の希薄化、情報があふれている現代社会において、生徒にとってより良い人間関係を構築していくための表現力や、自分で考え判断し必要な情報を取捨選択していく力が、今まで以上に重要なものとなってくる。国語科の果たす役割は益々大きなものとなっていくであろう。

本年度は「読んだことを基に仲間と感想を交流し物語のその後を想像して書く」という内容で研究授業を行った。文章中に根拠を求めながら読みを進めることで心情の変化を読み取り、物語の続きを想像して書くという学習である。

また本部会では小学校・中学校の二部会に分かれての研究体制をとっているが、それぞれの研究に加え、冬季はお互いの授業交流を図り、子ども達の発達段階に応じた指導方法を学び合っている。今年度は小学校より授業提供をしていただき、授業案検討や研究授業後の話し合いを行った。小中の連携を今後も深めていきたい。

II 成果と課題

国語科における言語活動を中心に、実際に授業を見たり指導案を検討したりしたことで、自分の授業に生かすことができた。

本年度の研究テーマに基づいた実践「夏の葬列」では、物語の続きを書くという作業を行った。教材の世界観を理解することが必要な作品だったが、生徒の主体的な読みができていた。書かれた作文から表現の工夫も見て取れ、作品を理解した上で主人公の生き方を考えられたことが伝わってきた良い実践であった。ワークシートからの分析等も今後の実践に向けて大変有意義な提案をしていただけた。

今後の研究として、今までのように小中それぞれで研究する方法、講師の方からお話を聞く方法、合同で研究する方法の良さを生かしていきたい。また、現在の国語教育の動向を踏まえて「単元を貫く言語活動」など、言語活動のさらなる充実を目指した教材研究が望まれる。指導法について学ぶ機会が作れたら良い。研究授業が2学期の初めであることから、1学期中に、より綿密な研究がなされるよう工夫していきたい。

今回も小学校の授業実践を中学校が参観する中で、生徒がこれまでどのように学んできたのかを知ることができた。小中で教材が同じものもあるので、小中の系統的な指導という観点からの研究も考えていきたい。

（部長 厚芝 瑞穂）

Ⅲ 成果物

・単元構想表

言語活動	ア 詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること。				
	指導事項	重点	学習過程	評価規準	
夏 の 葬 列 の 続 き を 考 え て み よ う	ア 語句の 意味理解		1 場面ごと簡単に確認しながら「夏の葬列」を読む。 2 初発の感想や疑問点や気になった点（登場人物・場面）最後の場面・人物・テーマについてまとめる。 3 本単元の学習課題を知る。 4 次時の予告と宿題（本文を家庭で読んでくる）		1 家庭
	イ 文章の 解釈 ウ 自分の考 えの形成	◎	1 前時に仲間のあげた疑問点などを知り、読みの課題を深める。 2 話の今後の展開を考える。 課題 (1) 彼はまたの町にもどってくるだろうか。※ 戻ってくるかこないかを考えさせる。 その際理由も考えさせる。 (文章から判断するように促す。) (2) 今後の展開はどうなるか。	・これまでの読みをもとに、話のその後を考え書いている。そう書いた理由も明確にできる。 ← ※ Cの生徒への手立て 関①読①言①	2
	イ 文書の 解釈	○	1 前時の生徒がまとめたものを分析し、読みの課題を設定する。・・・教師 ・読みが浅いと思われる部分。 ・読みを誤っている部分など。 ・必要ようと思われる表現。 ・語り手が評価をしている部分。 ・キーワード「葬列」「埋葬」 ・その他特徴的な表現にふれる。・比喻。	・2時間目に同じ ・文章中に根拠を求められるか。 ・また、それは正しい読みと言えるか。 言②	3
	ウ 自分の考 えの形成	◎	1 今までの読み取りをもとに、再度小説の続きを考えてみる。 (時間によっては、家庭学習でやってくる) ・物語の続きを書いてみよう。	・これまでの読みをもとに、話のその後を考え書いている。そう書いた理由も明確にできる。 A 文体などをまねて書いている。 理由もふさわしい。 B 話の続きを、あらすじで書いている。 理由もふさわしい C 自分の考えをまとめられない。 理由もあいまい。 読②	4
	エ 自分の考 えの形成		・仲間の発表を聞き、感想や意見を深める。	関①	5
	オ 読書と 情報活用		・山川方夫の他の作品を紹介する。 ・ショートショートを紹介する。 ・家庭等で紹介された本を読み、意見や感想を持つ。		(5) (5) 家庭